

第3回朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故調査委員会要旨

開催日時 平成 15 年 9 月 13 日（土） 10:00～19:40

出席者

委員 丸山委員長、上之蘭委員、長井委員、森谷委員

事務局 港湾空港局長、事故調査班、振興課長、万代島再開発室長ほか
（株）長大

1 内容

(1) 関係者事情聴取

設計・工事監理者、施工者

(2) 事情聴取内容の整理・討議

(3) 調査班が行った関係者事情聴取について

(4) 鉄骨破断面調査結果について

(5) 現地調査について

(6) 入江側・アトリウム前連絡デッキの安全性確認について

(7) 次回の進め方について

2 質疑

（設計業者事情聴取後）

委員 SDG が言っていた類似例を資料でもらうこと。

委員 デッキに内力がどれだけ入っているかわからない。死荷重だけで釣り合っているのならまだしも、斜材張力を変えている。張力を検出しておく必要がある。

委員 SDG が言っている、DL + PT を分けて提出させる必要がある。

委員 崩壊パターンを 10 以上は試したい。10 月下旬から 11 月初めまではかかる。

事務局 部材の損傷状況に係る現場調査報告は次回の委員会までに出したい。

（施工業者事情聴取後）

事務局 調査班が行った事情聴取概要を説明。

委員 黒沢建設（株）の H14 の鉄筋加工図は、確保すること。ほかの工区の鉄筋加工図も入手すること。縦に U 字筋が入っていたら問題である。

事務局 黒沢建設（株）から提出の調査報告書の説明

委員 黒沢建設の調査報告は、シュミレーションの中で、ひとつの破壊メカニズムとして検討する。

事務局 鉄骨破断面の調査結果を説明。

委員 破断した鉄骨の溶接部分は確認できるか。

事務局 保存してあるので、確認する。

委員 疲労破壊でないので、この 2 箇所については多分崩壊の結果であって、原因ではないと思うが、破壊の進み方を解析して、原因か結果かを判断する必要がある。

委員 斜材の張力が違うと、どのように構造部材に影響するか解析すること。

事務局 現地調査について説明。

委員 PC 鋼より線は「健全な破壊」と確認されたので、PC 鋼より線の引張試験はミルシ

ートに替えて良い。

事務局 入江側デッキとアトリウム前デッキの安全性確認について説明。

委員 タイロッドの初期張力をどれだけ入れているか急いで確認すること。

委員 定着部の鉄筋を確認する方法はあるか。

事務局 電磁波式の測定器で表面近くの鉄筋は確認できる。

委員 現状の張力が小さくて、鉄筋も入っている、ひびは入っていないということであれば、安全であるといえる。そのほかに別な角度で安全性を確認できないか考える。

委員長 次回の審議内容については、構造解析に関しては、初めに SDG の構造計算をチェック、その後いろいろな過程を取り入れて検証することとする。各委員から破壊に至るシナリオを多く考えてもらい、それを検討する。次回は 9 月 21 日、次々回 10 月 5 日とする。